

ヒグマによる事故を防ぐために

野山にも春が訪れ、冬眠から覚めたヒグマが活動する季節となりました。食料の乏しいこの時期、ギョウジャニンニクやフキなどの山菜は、ヒグマにとっても重要な食料です。山菜採りやレジャーなどで野山に入る場合は、ヒグマとの遭遇による事故などを未然に防ぐため、次のことに十分注意しましょう。

ヒグマに遭遇しないために・・・

野山に入る前に

地元の市役所・町村役場や森林管理署などで、事前にヒグマの出没情報を確認してください。

ヒグマの出没情報のある地域や、ヒグマ出沒を知らせる看板がある場所への立ち入りは避けましょう。また、犬を連れての立ち入りは、ヒグマを興奮させることがあり危険です。

ヒグマに出会わない工夫を

ヒグマの出没が予想される野山では、単独行動を避け、集団での行動を心がけましょう。野山での単独行動は、人とヒグマの双方で気付くのが遅れ、危険な状況になる場合があります。

また、鈴などの鳴りものを携帯したり、見通しの悪い場所では笛を吹くなど、人の存在を早めにヒグマに知らせる工夫をしましょう。特に、ヒグマの活動が活発になる早朝や夕方、ヒグマが人に気付きにくい濃霧時や降雨時は注意が必要です。ほとんどのヒグマは、人の存在に気付けば、自ら遭遇を避けます。

野山での飲食の際に

匂いの強い食料はヒグマを引き寄せる場合がありますので、控えましょう。また、残飯、空き缶などのゴミは必ず持ち帰りましょう。

野山にゴミを捨てたり埋めたりすると、ヒグマがこれを食べて味を覚えてしまいます。いったん味を覚えたヒグマは、これらの魅力的な食物を得るため危険な行動をとるようになることが知られています。

ヒグマに遭遇したら・・・

(1)まず落ち着く

あわてることは事故につながります。落ち着いて状況判断をしましょう。

特に、走って逃げると追いかけてくることがあるので、危険です。

(2)ヒグマを刺激しない

ヒグマがこちらに気付いていないようであれば、静かに立ち去りましょう。

また、距離が近い場合は、視線をそらさずゆっくりと後退してください。

(3)持ち物を取られたら

ザックなどの持ち物をヒグマに取られたときは、あきらめましょう。

注意：野生のヒグマとの遭遇については様々なケースがあり、これで絶対安全という対処方法はありません。

ここに示した内容については、調査研究や経験から有効と考えられている方法です。山に出かける際は細心の注意をお願いします。

なお、野山でヒグマに遭遇したり足跡の痕跡を見つけた場合は、市役所・町村役場などに情報をご提供ください。



問い合わせ先 産業課林務係 ☎ 52 2178

廃棄物の野焼き禁止について

廃棄物の野外焼却、いわゆる野焼きについては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」において一部の例外を除き原則として禁止されており、違法な野焼きを行った方には5年以下の懲役、1,000万円以下の罰金のいずれかまたは両方が科せられます。

野焼きの煙、すす、悪臭は周囲の方に迷惑をかけるだけでなく、空気の乾燥しやすい時期には火災を引き起こす危険性も無視できません。

なお、農業・林業を営むためにやむを得ないものとして廃棄物の焼却を行う場合は、事前に申請が必要となりますので、役場総務課防災係〔52 2112〕までご連絡願います。（野焼きは必要最小限とし、風向き・時間帯・周辺の環境などに十分配慮して焼却を行ってください。）

廃棄物の処理について不明な点は、役場建設課環境衛生係〔52 2179〕までお問い合わせください。